

第 3 章

オンラインを活用した (学びの場での)指導事例



本県では、実践を通して、「障害種別に、遠隔による自立活動の効果的な指導の在り方について明らかにする。」ことを目的の一つとし、研究指定校(参照:本冊 P75~P76)を指定して調査研究に取り組みました。

研究指定校は、遠隔による指導の中でも、「オンラインを活用した自立活動の指導」に重点を置き、研究事例を蓄積しました。

この章では、研究指定校の取組内容の中から、多様な学びの場(特別支援学級、通級による指導、通常の学級)での主な指導事例を紹介します。

通級による指導の効果が、通常の学級においても波及することを目指していくことが重要であることから、他校通級を受けている児童生徒の在籍校の、通常の学級での事例も掲載しています。



現地からのプレゼンテーションを集中して視聴している。

(1) 特別支援学級 (指導事例1 肢体不自由)

1 児童について

学年	小・高学年(A児童)
障害の種類・ 程度や状態等	A児童 ・二分脊椎、側弯 ・日常は、歩行器を使用して移動している。非常時や校外学習では車いすを使用。 ・階段は、近くで補助すれば、手すりをつかんで昇降することができる。

※児童の実態は、別紙「自立活動目標設定シート」(参照:本冊子 P20)のとおり (略)

2 単元について

(1) 単元名「ラジオ体操の正しい動作を覚えよう ～元気体操をつくって、先生や家族に発表するために～

(2) 単元の目標<区分>

- 元気体操の作成から発表までの活動を通して、同じ障害のある他者等と関わり、自己の良さに気付くとともに、主体的にコミュニケーションをとることができる。<2(3) 6(5)>
- 自分の体操の記録動画を活用して学習の振り返りを行うことにより、自分ができるようになった動きを知り、達成感を味わうとともに、主体的に体操を続けていこうとする意欲の向上を図ることができる。<2(3)>
- 病気による身体各部の状態を理解し、その部位を適切に保護したり、症状の進行を防止したりすることができる。<1(3)>
- 日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作を行い、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図ることができる。<5(1)>
- 装具や歩行器を活用して姿勢の保持や、各種の運動・動作を行い、日常生活に必要な基本動作、移動能力の向上を図ることができる。<5(2)>

(3) 単元の指導計画

① 対面による指導とオンラインを活用した指導を組み合わせた指導について

- 単元のはじめに学習計画や目標を立てたり、発表に必要な資料を集め作成したりする学習においては、作業時間を十分確保するために、対面による指導を行う。
- 身体に無理のない正しい姿勢で正しい身体の動かし方を知って運動する学習においては、オンラインを活用した指導を設定し、日常的に特別支援学校のセンター的機能を活用する。(専門性の高い教師の助言を得る)

② 対面による指導とオンラインを活用した指導を組み合わせた指導計画(17時間扱い)

次 時間	主な学習活動と内容		指導形態等
1次 (4)	○ラジオ体操第1の正しい動作を覚えよう。		対面による指導 個別指導 オンラインを活用した指導 個別指導
	1	ラジオ体操第1をやってみよう。	
	2	動画に撮って、動きを確認しよう。	
	3	前半部分の動きを正しくできるようにしよう。	

	4	後半部分の動きを正しくできるようにしよう。	
		夏期休業中	オンラインを活用した指導 個別指導
2次 (6)		○ラジオ体操第2の正しい動作を覚えよう。	対面による指導 個別指導 オンラインを活用した指導 個別指導
	1	ラジオ体操第2を見てみよう。	
	2 ~5	動きを確認しながら体操をしよう。(本時)	
	6	リズムに合わせて体操をしよう。	
3次 (3)		○「みんなの体操」をしよう。	対面による指導 個別指導 オンラインを活用した指導 個別指導
4次 (4)		○元気体操をつくって発表しよう。 ・動きを振り返る。(ラジオ体操第1・第2・みんなの体操) ・発表する相手を決める。 (お世話になっている特別支援学校の担当教師・保護者)	対面による指導 個別指導 オンラインを活用した指導

3 本時の指導(7/17時間)について

指導事例の概要	児童が、リアルタイムで自身の身体の動きをモニターしながら、特別支援学校の専門性の高い自立活動担当教師(ゲストティーチャー)(以下「ゲストティーチャー」)とやりとりする活動を通して、「できた・わかった」という達成感を味わうことができた事例。 (身体の状態の理解と日常生活に必要な動作の基本となる運動・動作の習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化に関する指導)
指導方法(場所)	対面による指導とオンラインを活用した指導を組み合わせた指導 (本校の特別支援学級⇔県立特別支援学校)
指導形態	個別指導



(1) 目標

○左に傾いたり、背中が曲がらないように気をつけながら、背筋を伸ばして、身体を横に曲げたり、前後に曲げたりする運動を行うことができる。<1(3)> <5(1)>

○装具をつけたまま、足を真上にあげることが意識して、足踏みの運動をすることができる。

<5(1)(2)>

○ICTを使って学習の振り返りを行うことにより、自分ができるようになった動きや運動が分かる。

<2(3)>

(2) オンラインを活用した指導のねらい

○オンラインを活用して、特別支援学校の専門性の高い教師から助言を受けることにより、児童が、身体に無理のない正しい姿勢で正しい身体の動かし方を知り、運動することができる。

<5(1) 2(3)>

○1時間の内、ゲストティーチャーとつなぐ効果がある場面(ラジオ体操第2を行う場面)で、オンラインを活用することにより、打合せや準備の負担を軽減しながら、継続的に指導・支援を受けることができる。

(3) 展開(45分)

時配等	主な学習活動と内容	ICT活用上の留意点等	教材教具・資料 (ICT機器等)
導入(5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容とめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> ・姿勢(背中・肩・足の位置)に気をつけよう。 ・まっすぐに動かそう。(背中・足) </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が学習の見通しがもてるように手順表を提示ながら行う。 ・大型モニターに児童の姿を正面及び後ろ姿を映し出すことで、自分の姿を確認できるようにしておく。 ・導入時からゲストティーチャーとオンラインでつなぎ、児童の学習の様子と教師の指導の様子を観察できるようにしておく。 	ホワイトボード 手順表 大型モニター
展開(35分)	<ul style="list-style-type: none"> ・からだクイズ ・ストレッチをしよう。 ・装具を着用していすに座る。 ・体操をしよう。(ラジオ体操第2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインを活用しゲストティーチャーに授業に参加してもらい助言が得られるようにする。 ・わからない運動やできない動きがあるときには、ゲストティーチャーに助言を仰ぐようにする。 ・ラジオ体操を行っている児童の姿を前後から撮影し、ゲストティーチャーや児童本人に動きの様子を伝わりやすくする。 ・ラジオ体操を行っているところの動画を撮影し、良かった点や改善した方がよい点を確認できるようにする。 ・撮影は児童の身体全体が見えるように、担任が行う。 	身体カード ストレッチ表 いす 体操カード 児童用タブレット PC 教師用タブレット PC 大型モニター
まとめ(5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りをする。 ・良かったことや気付いたことなどを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットPCで撮影した動画を見ながら振り返りをする。 	児童用タブレット PC 教師用タブレット PC

4 指導後の振り返りについて

(1) オンラインを活用した指導のねらいと、児童の変容

○ゲストティーチャーである県立特別支援学校の自立活動担当教師からの、オンラインによる即時的

な助言により、学習の前と後とでは、身体の動かし方が大きく変わった。

- 児童の身体づくりや動きの特性から、できない動作があった場合でも、その場で無理なくできる方法を示してもらえて良かった。
- 児童が活動する中で、出てきた疑問点(身体を前に倒すときに倒れそうで怖い、足がどうしても内側に入ってしまうなど)をすぐに質問することで、効率的に課題を解決することができた。
- オンラインで児童の身体の様子や動きを直接見られることにより、効率的な実態把握ができた。
- 授業時間内にやりとりができるので、打合せや準備の負担が少なく次回につなげることができた。
- 意欲的に身体を動かし、達成感を味わうことができていた。

(2) オンライン研究協議会における、参観者の主な感想等(オンライン公開研究授業後に実施)

- ICT 機器を効果的に活用し、児童が、ゲストティーチャーから助言や称賛を得られたことは貴重な経験になる。
- 日常的に特別支援学校のセンター的機能が活用されていて良い。
- 学習中に、リアルタイムで自分の動きをモニターして修正したり、授業の終わりにタブレット PC で振り返りを行ったりするなど、自己評価ができる場面を多く設定したことにより、意欲化が図られた。

5 まとめ

(肢体不自由のある児童への、オンラインを活用した自立活動の効果的な指導の在り方について)

(1) 成果

ア「自立につながる学びやすい環境」に関すること

- 肢体不自由という対象児童が少ない障害種のため、「学びのネットワーク」は、とても重要な役割をもった。
- 移動に困難を生じる障害種であるため、オンラインを活用した授業作りは、理解を深めたり、意欲を高めたりする手立てとして効果的であった。
- 同じような障害のある仲間や先輩との交流は、障害理解や将来の展望を深めるだけでなく、時間と場所の制限の少ない点でも効果的であった。
- 特別支援学校との放課後の定期的な打合せは、日頃疑問に思ったことなどをタイムリーに相談することができ、児童の実態把握や担任の指導力の向上につながった。

イ「学びの姿」に関すること

- リアルタイムで自分の動きをモニターしながら、集中して学習に取り組んでいた。
- 同じ障害のある児童生徒と交流できることを楽しみにしていた。相手に伝えることを意識して分かりやすい資料づくりに取り組んでいた。

(2) 課題

- 身体の状態に大きな変化が生じた場合は、対面による指導の方が、具体的な障害の状態等の把握ができる。
- 他機関とのオンラインを活用したやりとりは、アプリや機器の確認・準備に時間を要する。
- 同じような児童生徒の実態で、県内ネットワークを作り、気軽にオンラインを活用した交流学习や相談ができる仕組みがあるとよい。

(1) 特別支援学級（指導事例2 自閉症・情緒障害）

1 生徒について

学年	中・(A生徒)
障害の種類・ 程度や状態等	A生徒 ・自閉症の特徴がみられる。 ・慣れた他者とは会話ができるが、自尊感情の低さや過度の緊張感があるため に、他者と関わりをもつことに困難さがみられる。

※生徒の実態は、別紙「自立活動目標設定シート」(参照:本冊子 P20)のとおり (略)

2 単元について

(1) 単元名「自分らしい進路選択のための準備をしよう」

(2) 単元の目標<区分>

○中学校卒業後の生活について理解し、進路に関する自分の希望を整理して伝えることができる。

<6(2)>

○興味のある高等学校の先輩や、相談できる身近な方々との関わりをとおして、自己理解を深めながら卒業後の自分についてのイメージをもつことができる。<2(2)(3)> <3(2)(3)>

○興味のある高等学校の先輩や、相談できる身近な方々との関わりをとおして、場面にふさわしい表現方法を身につけ、相談することの良さや必要に応じて支援を受けることの大切さ等を実感することができる。<6(5)>

(3) 単元の指導計画

① 対面による指導とオンラインを活用した指導を組み合わせた指導について

○画面上の相手と対話するという状況は、集団の中で話を聞くことに比べ、相手意識が必然的に生まれ、聞き漏らし等が少ないと考える。そこで、進路選択に関する必要な情報を収集する学習において、オンラインを活用した指導を行う。

○単元のはじめに学習計画や目標を立てたり、収集した情報をプリントにまとめたりする学習においては、考える時間を十分確保するために、対面による指導を行う。

② 対面による指導とオンラインを活用した指導を組み合わせた指導計画(11時間扱い)

時	主な学習内容と活動	指導形態等
1	・現在の興味・関心や将来の夢や希望についての整理をする。	対面による指導 個別指導
2	・現在の自分の得意なことや苦手なことを整理し、自己理解を深める。	対面による指導 個別指導
3	・外部の専門家(SC)に自分の進路について伝え、助言等を受けながら自己理解を深める。	オンラインを活用した指導(Web 会議システム) 小集団の指導(ペア)
4	・興味のあるA高等学校について情報を収集する。	オンラインを活用した指導(Web 会議システム) 小集団の指導(ペア)
5	・前時にオンラインを活用して視聴したA高等学校の学校説明の内容について	対面による指導 個別指導

	て、疑問に思ったことや、不安に感じたことをまとめる。	
6	・興味のあるA高等学校について情報を収集する。 ・A高等学校の進路担当教師に聞きたいことを整理して伝え、必要な情報を収集する。	オンラインを活用した指導(Web 会議システム) 小集団の指導(ペア)
7	・興味のあるB高等学校について情報を得る。	オンラインを活用した指導(Web 会議システム) 小集団の指導(ペア)
8	・前時にオンラインを活用して視聴したB高等学校の学校説明を受けて、疑問に思ったことや、不安に感じたことをまとめる。	対面による指導 個別指導
9 本時	・興味のあるB高等学校の学科について情報を収集する。 ・B高等学校の生徒に、聞きたいことを整理して伝え、必要な情報を収集する。	オンラインを活用した指導(Web 会議システム) 小集団の指導(ペア)
10	・調べたことをもとに、高校生活をイメージしながら、進路に関する自分の夢や希望をまとめる。	対面による指導 個別指導
11	・外部の専門家(SC)に自分の希望を整理して伝える。	オンラインを活用した指導(Web 会議システム) 小集団の指導(ペア)

3 本時の指導(9/11時間)について

指導事例の概要	自分に合った方法で、進学希望の高等学校の担当教師とやりとりする活動を通して、進路選択に関する必要な情報を収集し、自己選択や自己決定する体験ができた事例。(他者との関わりへの自信と意欲をもち、場や相手の状況に応じたコミュニケーションの力を高める指導)
指導方法(場所)	オンラインを活用した指導 (本校の特別支援学級⇔B 高等学校)
指導形態	小集団の指導(ペア)



(1) 目標

- タブレット型端末を活用して他者に質問するなどの活動を行い、周囲の状況や他者の感情に配慮した伝え方ができる。<6(2)(5)> <3(2)>
- 自ら刺激の調整をしたり、必要に応じて担任に援助を求めたりしながら、自分の気持ちを落ち着かせて最後まで活動しようとしている。<2(2)>

(2) オンラインを活用した指導のねらい

○自分に合った方法(Web 会議システムのチャット機能の活用)で他者とやりとりをする活動を通して進路に関する必要な情報を得ることができる。

○自分に合った方法(Web 会議システムのチャット機能の活用)で表現する活動を通して、自他の理解を深め、集団参加の基礎を育む。

(3) 展開(50分)

時配等	主な学習内容と活動	ICT活用上の留意点等	教材教具・資料 (ICT機器等)
導入(7分)	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習の流れを確認する。 学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>B 高校の専門学科ではどのような学習をするのだろうか。 - 実習について知ろう -</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の授業についての内容と流れを掲示し、見通しをもって活動できるようにする。 前時に準備した質問や手順を再確認することにより、オンラインを活用して必要な情報を収集することができるようにする。 	生徒用PC 電子黒板 本時の流れの掲示物 質問を記入したワークシート
展開(35分)	<ul style="list-style-type: none"> B高等学校の専門学科について情報を収集する。 <ul style="list-style-type: none"> ○1年生での学習 ○2・3年生での学習 ○養鶏について(数・種類・出荷の時期・病気の予防) B高等学校の実習の様子を視聴する。 B高等学校の生徒に聞きたいことを整理して伝え、必要な情報を収集する。 <ul style="list-style-type: none"> ○実習の内容 ○大変なこと ○うれしいこと 	<ul style="list-style-type: none"> B高等学校での学習を具体的にイメージできるようにするため、オンラインを活用してB高等学校の専門学科担当教師から、直接学習内容を聞くようにする。 A生徒の興味のある養鶏実習の授業について、実感をもって理解できるようにするため、オンラインを活用して、B高等学校の鶏舎や鶏の世話等の様子を視聴する。 B高等学校の担当教師や生徒からの質問に、短い言葉(音声による会話・チャット機能)でも確実に答えられるようにするため、視覚化した返答例を机の上に置きいつでも参考にできることを伝えておく。 オンラインを活用した学習の終了時には、相手に対する感謝の気持ちを、丁寧な言葉で表現できるように支援する。 	生徒用PC 電子黒板 聞き取り用ワークシート 質問を記入したワークシート
まとめ(8分)	<ul style="list-style-type: none"> B高等学校の学習内容でわかったことを簡単にまとめる。 B高等学校についての疑問を自分らしい伝え方で質問することができたかを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 収集した情報を簡潔にまとめられるように、ワークシートを工夫する。 質問して受けた答えを確認しながら、相手が答えてくれた思いについても触れられるようにする。 Web 会議システムのマイクやチャット機能を使って質問できたことを振り返り、様々な伝え方の中から自分らしい方法を選択する有効性について、自分の言葉で表現できるようにする。 	まとめ用ワークシート 自己評価用ワークシート

4 指導後の振り返りについて

(1) オンラインを活用した指導のねらいと、生徒の変容

- 自分に合った方法(Web会議システムの活用)で他者とやりとりをする活動は、自らマイクを使って話す方法を選び、声の大きさなどを気にしながら取り組むことができた。大切だと思った内容は、ワークシートに書き留めて、聞き取る力に優れている生徒の特性を生かして情報を得ることができた。
- 自分に合った方法(Web会議システムの活用)で表現する活動は、相手の状況やこちらの言葉を受け取ったときの気持ちなどを考えて活動することができた。Web会議の途中、通信環境が不安定的になり映像が止まってしまうことがあった。静かに待つことはできたが、事前に様々な状況を想定した備えが必要であった。
- B高等学校の担当教師や生徒とやりとりをする活動後の生徒の感想は、「少し自分が固まってしまったが、思っていたよりもよくできた。」「いつもより声を大きくして話すことができた。」というものだった。パワーポイントに映し出される写真や動画は、集中して視聴することができた。

(2) オンライン研究協議会における、参観者の主な感想等(公開研究授業後に実施)

- 接続がうまくいかなかった時のことを生徒も想定し、その時間の対応について身に付けておく必要がある。また、「聞こえますか。」「もう一度言ってください。」等の言い方も学習しておくとうい。
- ICT機器の配置について、生徒用のPCと電子用黒板の併用は、生徒にとっては、PCの操作がしやすく、B高等学校の状況を大画面で見ることができるといいう良さがあり、担当教師にとっては、生徒と情報を共有でき、指導しやすいという良さがあった。
- オンラインを活用した指導においては、生徒の自発的な行動や発言を促す意味からも、教師は、やや離れた場所から行うことが大切である。

5 まとめ

(自閉症・情緒障害のある生徒への、オンラインを活用した自立活動の効果的な指導の在り方について)

(1) 成果

ア 「自立につながる学びやすい環境づくり」に関すること

- オンラインを活用した指導は、対面での会話が苦手な生徒にとって、ストレスや不安を軽減して会話することができる学習環境となり、他者とのやりとりで達成感が得られ、できたという思いを自信につなげることができた。

イ 「学びの姿」に関すること

- 担任の他に会話が成立する職員が増えた。コミュニケーションの幅が広がってきた。
- 本校所属のSCと定期的に面談ができるようになり、自己理解を深めることにつながっている。

(2) 課題

- オンラインを活用した指導をより効果的に行うために、対面の指導との組み合わせを、自立活動の指導のねらいや、生徒の障害の状況等を考慮して、更に検討する必要がある。
- Web会議システムを使った授業は、相手側と綿密に打ち合わせを行い、生徒の変容に合わせて内容を随時見直していくことが必要である。
- 通信環境が不安定なことがあるため、その際生徒の集中が途切れないような手立て(活動の内容等)をとっておくことが必要である。相手校とも共通理解しておくことが大切である。

(2) 通級による指導 (指導事例3 聴覚障害)

1 児童について

学年	小・高学年(A児童)、小・高学年(B児童)
障害の種類・ 程度や状態等	<p>A児童</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軽度難聴、高音急墜型。 補聴器は両耳装用、デジタル補聴援助システムは所持していない。 ・主なコミュニケーション手段は、聴覚口話。 <p>B児童</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中等度難聴。 補聴器は両耳装用、デジタル補聴援助システムを学校生活で使用している。 ・主なコミュニケーション手段は、聴覚口話。

※児童の実態は、別紙「自立活動目標設定シート」(参照:本冊子P20)のとおり (略)

2 単元について

(1) 単元名「自分のきこえについて、伝え方を工夫して先生や友達に発表しよう。」

(2) 単元の目標<区分>

- どのような音や声が聞こえ、どのような音が聞き取りにくいかを自分で担当教師に言うことができ、それを周囲にどのように伝えるかを担当教師と一緒に考えることができる。<1(4)>
- 同じ聞こえにくさのある他の児童と、悩みを打ち明け合ったり、自分の素直な気持ちを表現したりすることで情緒の安定を図る。<2(3)>
- 同じ聞こえにくさのある他の児童と話すことで、学校生活の困難を乗り越える方法を知り、主体的に障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服しようとする意欲をもつことができる。<2(3)>
- 自分の聞こえにくさを自ら伝え、安心感をもって学校生活を送ることができる。<2(3)>
- 自分の発言を相手がどのように受け止めるかを考えながら、発言することができる。<3(4)>
- 自分にとって分かりやすい手段を求めたり、聞こえないときは聞き返したりすることができる。<6(4)>

(3) 単元の指導計画

① 対面による指導とオンラインを活用した指導を組み合わせた指導について

- きこえの授業(難聴理解授業)(以下「きこえの授業」)の発表準備等は、各自が考える時間を十分確保するため、対面による個別指導を行う。
- 「発表する」「発表を聞く」等の学習は、役割を明確にし、チャット機能などを活用して人とのやりとりが円滑になる体験を積むために、オンラインを活用した指導(小集団の指導)を行う。

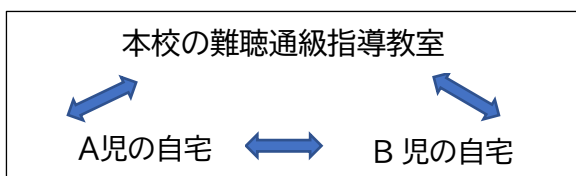
② 対面による指導とオンラインを活用した指導を組み合わせた指導計画(12時間扱い)

時	主な学習内容と活動	指導形態等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学校生活の中で、聞こえにくい場面について想起する。 ・場面ごとに、どうしてほしいか(こうしてもらったから良かったなども含め)を考え、安心して学校生活を送るために必要なことを担当教師と話し合う。 	<p>A:オンラインを活用した指導 (Web 会議システム)</p> <p>B:対面による指導 個別指導</p>
2・3	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の「きこえの授業」を振り返る。 ・今年度、学級の他の児童や先生へ伝えたいことを考える。 	<p>A:オンラインを活用した指導 (Web 会議システム)と対面による指導</p>

	・昨年度の学級の他の児童からの感想を見返し、今年度の発表内容を考える。	B:対面による指導 個別指導
4・5	・発表内容について、調べる。 A児童:指文字 B児童:補聴器の仕組み	A:オンラインを活用した指導 (Web 会議システム)と対面による指導 B:対面による指導 個別指導
6 本時	・「きこえの授業」の内容について、お互いに発表し合う。 ・相手児童(A⇔B)のアイデアを聞き、良いところを伝え合う。	A・B:オンラインを活用した指導 (Web 会議システム) 小集団(ペア)の指導
7	・前回の小集団の学習を振り返り、他の児童の実践や感想を、自分の「きこえの授業」に生かせないか考える。 ・発表の準備をする。	A・B:対面による指導 個別指導
8・9	・発表の準備をする。 ・学級の他の児童や先生へ伝えたいことを確認する。	A・B:オンラインを活用した指導 (Web 会議システム)または、対面による指導 個別指導
10	・当日のリハーサルを行う。 ・リハーサルを行った後自己評価し、さらなる改善を図る。	A・B:対面による指導 個別指導
11	・在籍校、在籍学級で「きこえの授業」を行う。	A・B:対面による一斉指導(各在籍学級)
12	・「きこえの授業」の振り返りを行う。 ・学級の他の児童の感想を読む。 ・来年度のきこえの授業について話す。	A・B:対面による指導 個別指導

3 本時の指導(6/12時間)について

指導事例の概要	他校通級児童が、下校後に各家庭に居ながらペア学習を行うことを通して、伝え合う力を高めることができた事例。 (小集団の中で、自身が行う「きこえの授業」について自分の考えを話したり、相手の考えを聞いたりすることで、自分に自信をもち、伝え合う力を高める指導)
指導方法・(場所)	オンラインを活用した指導 (A児童の自宅 ⇔ B児童の自宅 ⇔ 本校の難聴通級指導教室)
指導形態	小集団の指導(ペア)



(1) 目標

- 同じ聞こえにくさのある他の児童と、自分の考えを話したり、相手の話を聞いて意見を伝えたりすることができる。<2(3)> <3(4)>
- 自分にとって分かりやすい手段を求めたり、聞こえないときは聞き返したりすることができる。

○日頃思っていることや考えていることを表現し合うことで情緒の安定を図る。<2(1)>

(2) オンラインを活用した指導のねらい

○新型コロナウイルス感染症の広まりが収まらず対面によるグループ学習を行えない中、オンラインを活用し、同じ聞こえにくさのある児童とグループ学習を行い、仲間づくりや自己認識が高められるようにする。

○オンラインによる指導は、マスクの着用の必要がなく、他の児童や担当教師の表情や口形がよく見える。分からない時に聞き返す方法や相手の表情にも注目する態度を身に付けることを目指す。

○自分の言いたいことが相手に伝わりにくい時にはチャット機能を使い、視覚情報を追加することで相手に伝わる経験を重ねることができる。自分にあったコミュニケーション手段を選択していこうとする気持ちが育つ効果が期待できる。

(3) 展開(50分)

時配等	主な学習内容と活動	ICT活用上の留意点等	教材教具・資料 (ICT機器等)
導入 (3分)	<ul style="list-style-type: none"> ・補聴状況の確認をする。 ・本時のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">相手の発表の良いところを見つけて、相手に伝えよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・Web 会議システムに入室した児童から補聴状況の確認をする。(補聴器の装用・掃除の確認、聞こえ方の確認) ・児童が背景音の入りやすい場所で参加した場合は、場所の移動を相談する。(事前に伝えておく) ・担当教師がチャット機能を使い、適宜聞き馴染みのない言葉を情報保障する。必要に応じて児童が辞典やインターネットを使い、意味を調べる時間を設ける。 	担当教師用PC 児童用タブレットPC
展開 (42分)	<ul style="list-style-type: none"> ・日記の発表をする。相手の発表に質問する。 ・「きこえの授業」の内容を発表する。 A児童:指文字 B児童:補聴器の仕組み ・発表に対して、良いところを伝えたり質問したりする。 ・感想を個々にチャット欄に入力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・使用端末によっては、参加者の画面とチャット欄を同時に画面上に映すことができない場合がある。画面の切り替えにより学習に支障が生じる場合は、チャット欄の代わりにホワイトボードを使用するなど、児童と相談して決める。 ・チャット欄への入力に多く時間を要する場合は、担当教師が代わりに入力する。 ・チャット欄に入力できなかったことも口頭で補足できるような時間を設ける。 	日記帳 「きこえの授業」の流れ(ワークシート) ※前回指導時に渡したもの ホワイトボード 単語カード
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動を振り返る。 ・感想を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返る観点(相手の良いところを見つけ、伝えられたか)を提示して、自己評価できるようにする。 ・担当教師からよかった点を伝える。 	

4 指導後の振り返りについて

(1) オンラインを活用した指導のねらいと、児童の変容

○オンラインを活用したことで、コロナ禍でもペア学習を重ねられ、以前より担当教師が間に入らなく

ても、自分の考えを話したり、相手の表情を見て意図的に話題を変えようとしたりする姿が見られるようになった。

○コミュニケーションの中で自然とチャット機能を使用したり、画面越しに簡単な手話やジェスチャーを交えたりして、相手に伝えようとする姿が多く見られた。

(2) オンライン研究協議会における、参観者の主な感想等(オンライン公開研究授業後に実施)

○ICT機器の機能が児童の1つの選択肢になっていた。学校教育の中で何度もこうした場面が設けられることで、将来の様々な場面でICT機器が自分の選択肢になり、自分の行動の選択肢を増やすことにつながるのではないかと。

○自宅に居ながら通級による指導が受けられることを実証する非常に貴重な実践である。

○音声トラブルに対しては黒板で確認を行い、児童の聞こえや発言に対してはチャット機能で確認を行っていた。Web会議システムによる機能を効果的に活用していた。

○オンラインを活用した授業をする際には、ICT支援員などに常駐してもらえると安心して活動することができる。

5 まとめ

(聴覚障害のある児童への、オンラインを活用した自立活動の効果的な指導の在り方について)

(1) 成果

ア 「自立につながる学びやすい環境」に関すること

○対面による指導とオンラインを活用した指導を組み合わせるハイブリッド型の指導を継続して行うことができ、在籍校での補聴状況や学校での支援について早期に状況を把握し、指導支援することができた。

○オンラインを活用した学習において、「発表する」「発表を聞く」等、役割を明確にして活動することにより、人とのやりとりが円滑になる体験を積むことができた。

イ 「学びの姿」に関すること

○ペア学習を重ねられたことで、当初は相手の意見に同意することが多かった児童が、次第に自分から考えを話せるようになってきた。また、自分から声をかけて話を進めたり、相手の表情を見て意図的に別の話題に話題を変えたりしようとする姿が見られた。

○画面越しに相手が困っている様子を感じ取ったときなどは代弁するなど手助けする姿も見られた。

○学校生活や行事での聞こえにくさや、自分が行った「きこえの授業」の内容等について話し合い、同じ聞こえにくさのある人の多様な考えに触れることができた。

(2) 課題

○オンラインによる学習は、聞き取りの面で対面以上に難しい児童生徒がいる。聞こえ方を十分確認してから実施する必要がある。特にグループ学習では、参加人数が増えることで、オンラインでの聞き取りが難しくなった例もあった。それぞれが自分に合った情報保障を選択できるようにしたいが、担当教師では全てを担いきれない。話し合いのルールを共有したり、人手を介さないで情報を自力獲得できる力を身に付けたりする必要がある。

○在籍校とのオンラインを活用した通級による指導の実施について、他校通級においても、自校通級と同様の、さらなる連携を進めていくことが大切である。

(2) 通級による指導 (指導事例4 言語障害)

1 児童について

学年	小・低学年(A児童)
障害の種類・ 程度や状態等	A児童 ・言語障害 置き換え (サ・ス・ソ音→シャ・シュ・ショ音、ザ・ズ・ゾ音→ジャ・ジュ・ジョ音、ツ音→チュ音等) *一貫性は見られないがキ→チになったり、ポケット→ポチエットになったりする。

※児童の実態は、別紙「自立活動目標設定シート」(参照:本冊子P20)のとおり (略)

2 単元について

(1) 単元名「ザ行音を正しく発音しよう(置き換え)」

(2) 単元の目標 <区分>

- スモールステップで成功体験を積みせることで自信をもたせ、最後まで集中して課題に取り組むことができる。<2(3)>
- 相手の話をよく聞くことや話す内容を理解することができる。<3(2)>
- ザ行音を正しく発音することができる。<6(2)(5)>

(3) 単元の指導計画

① 対面による指導とオンラインを活用した指導を組み合わせた指導について

- 教材を舌の上に置くなどして構音点を確認し、舌の動きや口の形のよい状態を、児童自身が実感できるような学習は、対面による指導で行う。
- 発音練習や定着のための指導は、オンラインを活用した指導で行う。対面による指導ができない場合でも継続して行うことができるので、早期の課題改善につながりやすい。

② 対面による指導とオンラインを活用した指導を組み合わせた指導計画(11 時間扱い)

時	主な学習内容と活動	指導形態等
1	・サ行音を短文で正しく発音できるようにする。 ・ズ音を単語の中で正しく発音できるようにする。	オンラインを活用した指導 (Web 会議システム) 個別指導
2	・サ行音を短文で正しく発音できるようにする。 ・ズ音を単語や短文の中で正しく発音できるようにする。	オンラインを活用した指導 (Web 会議システム) 個別指導
3	・ズ音を単語や短文の中で正しく発音できるようにする。	オンラインを活用した指導 (Web 会議システム) 個別指導
4	・ザ音を単音や無意味音、単語で正しく発音できるようにする。	対面による指導 個別指導

5 本時	・ザ音を単語や短文の中で正しく発音できるようにする。	オンラインを活用した指導 (Web 会議システム) 個別指導
6	・ザ音を単語や短文の中で正しく発音できるようにする。	対面による指導 個別指導
7・8	・ゼ音を無意味音や単語の中で正しく発音できるようにする。	オンラインを活用した指導 (Web 会議システム) 個別指導
9・10	・ゼ音を短文の中で正しく発音できるようにする。	オンラインを活用した指導 (Web 会議システム) 個別指導
11	・ザ行音を短文の中で正しく発音できるようにする。	対面による指導 個別指導

3 本時の指導(5/11 時間)について

指導事例の 概要	他校通級児童が、在籍校に居ながら、発音の定着を図る活動を通して、困難を改善・克服する意欲を高めることができた事例。 (口腔器官をスムーズに動かす力を高め、正しい発音方法の定着を図る指導)
指導方法・ (場所)	オンラインを活用した指導 (A児の在籍校⇔本校の言語障害通級指導教室)
指導形態	他校通級 個別指導



(1) 目標

- ザ音を正しく発音することができる。<6(2)>
- 自分の発音に気付くことができる。<2(3)>

(2) オンラインを活用した指導のねらい

- マスクをとり口形が確認でき、会話明瞭度を高めるような効果が期待できるためオンラインによる指導を行う。
- 一音一音丁寧に伝えることが意識してできるようにする。

(3)展開(50分)

時配等	主な学習内容と活動	ICT活用上の留意点等	教材教具・資料 (ICT機器等)
導入 (3分)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常会話をする。 ・口の体操をする。 「あいうえあおい」 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のはじめに、タブレット型端末にウェブカメラを装着し、画面の見やすさと、スピーカーの聞き取りやすさを確認する。 ・本時の流れを書いたホワイトボードを提示し、見通しをもって学習できるようにする。 ・A児の興味・関心のある話題をカードにして提示し、自由に会話をしながら、本児の学習意欲を高めるようにする。 	タブレット型端末 ウェブカメラ ホワイトボード 口の体操カード 絵カード
展開 (42分)	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> ザ音を正しく発音しよう </div> <ul style="list-style-type: none"> ・単音や無意味音節の中で正しく発音する。 ・単語や短文の練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット型端末の発表者モードを使用し、単音や無意味音節の練習を児童が興味をもって取り組めるようにする。 ・イヤホンを使って音声を鮮明に聞き取ることで、評価が適切にできるようにする。 ・回数を視覚化したカードを活用し、単語を同じ回数で繰り返すことで練習のリズムを整える。 ・見て分かるように文字カードや絵カードを利用しながら進める。 	タブレット型端末 双六 対戦表 カードゲーム 構音ドリルカード イヤホン 絵カード
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・本時について振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の流れを書いたホワイトボードを提示し、活動を思い出しながら振り返ることができるようにする。 	ホワイトボード

4 指導後の振り返りについて

(1) オンラインを活用した指導のねらいと、児童の変容

- コロナ禍でもマスクを外してお互いの口の動きを観察し合いながら練習を進めることができた。
- 児童は文章を読むことに不慣れで読みの流暢性にやや欠ける面があり、文章だけでなくイラストを添え適量の課題となるよう配慮した。単語練習では回数を視覚で確認できるよう工夫した。担当教師は手本としてゆっくりと話すように心掛けた。集中力や持続力が続くように教材を工夫した。
- 遠隔のため担当教師の指示が多くなり、児童の活動を止めてしまうことが多々あったので、児童の反応や発音に集中するよう考慮した。
- オンラインを活用した指導を開始した頃は、機器の取り扱いや雰囲気慣れず緊張感が目立ったが、接続のトラブルがあっても支障なく学習を進められるようになった。

(2) オンライン研究協議会における、参観者の主な感想等(オンライン公開研究授業後に実施)

- オンラインでも対面のような関係性を保ちつつ集中力・主体性もみられ、授業が工夫されていることが分かった。

- 担当教師のタイミングのよい声掛けや評価がとても良かった。ことばだけでなく、動作も加えて褒めたことで、担当教師の思いがより児童に伝わったと感じる。
- 教材が視覚と聴覚を活用できるように工夫されていて分かりやすかった。
- 短文の練習では、児童は担当教師が先に読むと比較的誤りが少なかったので、段階によって範読は大切だと感じた。

5 まとめ

(言語障害のある児童への、オンラインを活用した自立活動の効果的な指導の在り方について)

(1) 成果

ア 「自立につながる学びやすい環境」に関すること

- オンラインを活用した指導は、コロナ禍等対面による指導ができない場合でも、マスクを外して舌のトレーニングや口の体操を行う等、学習環境を継続してつくることにつながり、発音の定着に効果的であった。
- 長期休業中に指導の継続を図ることで、課題改善に向けて家庭での児童の意識を高めることができた。
- オンラインを活用した指導に適した教材・教具を工夫するとともに、画面に提示する情報量を考慮することにより、集中してリズムよく練習することができた。
- オンラインを活用した指導は、画面上の担当教師と対話するという状況であるため、相手に伝える意識が必然的に生まれ、集中してやりとりを楽しむことができた。
- 他校通級児童が、オンラインを活用して学習することにより、保護者の送迎の負担軽減にもつながった。

イ 「学びの姿」に関すること

- 相手に伝わるように一音一音丁寧に発音している姿が見られた。
- 映像を見ながら、「口の形ができています」と、自分の発音の仕方を振り返る場面が見られた。
- オンラインを活用した指導を開始した頃は、機器の取り扱いや雰囲気慣れず緊張感が目立ったが、接続のトラブルがあっても支障なく学習が進められるようになった。

(2) 課題

- 音作りの段階では、児童は正しい舌の形や動きを獲得するために、試行錯誤を繰り返す。舌圧子を使って直接舌に触れたり、体の緊張をほぐしたりするためには対面による指導が効果的であると感じた。
- 発音の定着にはオンラインを活用した指導も有効であった。今後は対面による指導とオンラインを活用した指導の双方の良さを取り入れたハイブリッド型の指導が望ましいのではないかと考える。

(2) 通級による指導 (指導事例5 注意欠陥多動性障害)

1 児童について

学年	小・高学年(A児童)、小・高学年(B児童)
障害の種類・ 程度や状態等	<p>A児童(本校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ADHDの診断 こだわりなどの特徴もある。 ・順序立てて説明することが苦手で、緊張すると吃音が多くなる。 ・困ったときには質問ができず、事が大きくなってから「どうしよう」と泣き出すことがある。 <p>B児童(他市の小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常の学級では友達との言葉のやりとりに消極的。 ・ICT機器への興味がある。家で友達とオンラインでゲームを行う際はリラックスして会話ができる。

※児童の実態は、別紙「自立活動目標設定シート」(参照:本冊子P20)のとおり (略)

2 単元について

(1) 単元名「会話の達人になろう ～新しい友達との会話を楽しもう～」

(2) 単元の目標 <区分>

- 他者の言葉を集中して聞く力や聞いたことを記憶する力を鍛える。<3②>
- 自分の気持ちや考えを話すことができ、「説明する」「お礼を言う」「質問する」ためのコミュニケーションに必要な力を身に付けることができる。<6②>
- 会話を楽しむために、自分の興味のあることや思いを一方向的に話すのではなく、相手の状況を把握し、話す内容を考えて会話を続けることができる。<6④>

(3) 単元の指導計画

① 対面による指導とオンラインを活用した指導を組み合わせた指導について

- 自立活動動画コンテンツを活用して、Web会議システムを行う際のマナー等を学習する場合や、自己紹介文を書く等作業を伴う学習の場合は、対面による指導を行う。
- 「聞く」「話す」等、役割を明確にし、初めての人ともスムーズな会話を楽しむという体験を積むために、オンラインを活用した指導(小集団の指導)を行う。

② 対面による指導とオンラインを活用した指導を組み合わせた指導計画(7時間扱い)

時	主な学習内容と活動	指導形態等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・集中力・記憶力ゲーム。「何番目の物は？」 ・自立活動コンテンツ動画を活用した指導。「会話のマナー」 ・自己紹介文を作ろう。 	対面による指導 個別指導
2	<ul style="list-style-type: none"> ・集中力・記憶力ゲーム「何番目の物は？」 ・自立活動「想定外が起きたときの対処法を考えよう」 ・できごとを視覚的なイラストなどで整理しよう。 	対面による指導 個別指導
3	<ul style="list-style-type: none"> ・集中力・記憶力ゲーム「何番目の物は？」 ・自立活動コンテンツ動画を活用した指導。「相手に分かりや 	対面による指導 個別指導

	<p>すぐ伝えよう 4W1H」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当教員と会話のキャッチボールゲームをする。 	
4 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き方と話し方のポイントを確認する。 ・自己紹介をしよう。 ・友達とゲームをしよう。「恐竜マンション」 	<p>オンラインを活用した指導 (Web 会議システム) 小集団の指導(ペア学習)</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・集中力・記憶力ゲーム「恐竜マンション」「分かりやすく伝えよう」 ・話の順序を考えて、会話シートを並び変える。 ・担当教員と会話のキャッチボールゲームをする。 	<p>対面による指導 個別指導</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き方と話し方のポイントを確認する。 ・学校紹介をしよう。 ・友達とゲームをしよう。「恐竜マンション」「間違い探し」 	<p>オンラインを活用した指導 小集団の指導(ペア学習) (Web 会議システム)</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ペア学習の様子を録画から振り返る。 	<p>対面による指導 個別指導</p>

3 本時の指導(4/7時間)について

指導事例の概要	<p>移動時間や空間の制限を超えて、他市の小学校の児童と双方向に交流する活動を通して、初めての人もスムーズな会話を楽しむという体験ができた事例。 (オンラインを活用したペア学習で、新たな相手と会話やゲームを楽しみながら、言葉によるコミュニケーションの力を高める指導)</p> <p>A児童(本校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情緒の安定、言葉によるコミュニケーションと他者理解の指導。 <p>B児童(他市の小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインを活用して積極的に会話などのコミュニケーションを行う指導。
指導方法・(場所)	<p>オンラインを活用した指導</p> <p>(本校のLD・ADHD等通級指導教室⇔他市小学校のLD・ADHD等通級指導教室)</p>
指導形態	<p>小集団の指導(ペア)</p>



(1) 目標

○初めての相手に緊張せずに自分の気持ちや考えを話すことができる。<6②>

○ゲームでは「説明する」「お礼を言う」「質問する」ために必要なコミュニケーションの仕方を身に付けることができる。<6②>

(2) オンラインを活用した指導のねらい

○興味があるオンラインを活用し、緊張せずに新しい友達と会話を楽しむことができる。

○タブレット PC の画面に視点をしぼることで、相手を見て様子を伺いながら、会話することができる。

(3) 展開(45分)

時配等	主な学習内容と活動	ICT活用上の留意点等	教材教具・資料 (ICT 機器等)
導入(5分)	<p>・『今日の学習』から本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>会話の達人になろう。 「新しい友達と会話を楽しもう」</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介文を練習し、はっきり音声が行くようにする。 ・視点や相手の様子が分かるようにパソコンの画面を調整する。 	ワークシート 録画用タブレットPC 自己紹介文
展開(35分)	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介を交代で行い、質問したり、答えたりする。 ・ゲーム「恐竜マンション」を行う。 ・指示書を読んで説明したり、教えてもらったときはお礼を言ったりする。 ・悩んだときには質問する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音声の聞き取りにくさや聞き逃した場合、質問できるように、一度止める。 ・A児の発音が明確でない場合にはゆっくり話すことを伝える。 ・画面からの相手の様子を伺いながら、会話するように支援する。 ・指示書カードを読む際には、手元を画面に映さずに、言葉による説明を重視する。 ・答えは最後に確認し、クリアできた喜びを味わえるようにする。 	児童用タブレットPC ゲーム用具
まとめ(5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・今日のめあての反省や、相手の児童の分かったことを記録して、振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用して、自分の言葉で分かりやすく説明できたか、友達の話を様子を伺いながら聞くことができたか確認する。 	

4 指導後の振り返りについて

(1) オンラインを活用した指導のねらいと、児童の変容

- 新たな友達ができたと喜び、一つの画面に集中したことで、相手の様子を見ながら話したり、相手の話を集中して聞いたりすることができた。
- Web会議システムでのやりとりに適したゲームを教材にしたことで、「説明する」「質問する」などを取り入れて会話を楽しむことができた。
- ペア学習で学んだことを、通常の学級の友達と対面でもできるようにつなげていきたい。

(2) オンライン研究協議会における、参観者の主な感想等(オンライン公開研究授業後に実施)

- 児童の興味があるオンラインを活用したことで、緊張せずに自信をもって会話できた。他市の小学校の児童と交流することで、「友達を増やしたい。」「もっと自分のことを知ってほしい。」という気持ちが芽生えた。
- Web会議システムを活用したやりとりは、児童の障害の特性から、1対1で相手が分かりやすい上に、画面に視点を集中することができ、学びやすい環境と言えるのではないか。

- 吃音がある児童に対して担当教師がさりげなく配慮していた。隣りに教師が座って声を掛けるのは児童にとって安心感がもてる反面、児童が画面の相手に集中しているときに声を掛けるとよそ見をさせてしまうので、担当教師の位置や声を掛けるタイミングなど、関わり方を検討する必要がある。
- PCの集音機能が弱く、高性能な集音器があるとよかった。
- 録画視聴による研究授業では、県発達障害者支援センターの先生に授業の様子を見てもらい、後日、指導・助言を得ることができた。パワーポイントに動画を入れて共有し、児童の個人情報の流出に配慮した。

5 まとめ

(注意欠陥多動性障害のある児童への、オンラインを活用した自立活動の効果的な指導の在り方について)

(1) 成果

ア 「自立につながる学びやすい環境」に関すること

- オンラインを活用した指導は、注意機能に特性がある児童や対面に不安や緊張感を感じる児童にとって、画面に注目でき、不安が軽減する学習環境となり、相手の様子を伺いながら集中して活動することができた。
- オンラインを活用した学習に適したゲームを教材として活用することにより、リラックスして会話や質問などを行い、楽しく活動することができた。
- オンラインを活用することにより、自立活動の指導のねらいや、障害の状況等に応じて、通常の学級・他校や他市の通級指導教室とつながることができ、学習者のマッチングが可能となり、ペア学習を効果的に行うことができた。

イ 「学びの姿」に関すること

- ペア学習をする中で、「大丈夫です。」など、相手の動きを待つ適切な言葉かけができるようになった。
- 「次回の学校紹介をお楽しみに・・・。」など楽しみにし、A児は、学校の写真を撮り、文を書いて、読む練習を意欲的に行った。
- 在籍学級での教科学習において、他の児童の話聞いて一呼吸おいてから反応できることが増えてきた。

(2) 課題

- 児童から、「PCの画像を映すときには、正面からが良い。」「チャットなどの機能が多いと落ち着かない。」などの声があった。個々の障害の特性を理解し、ICT機器を利活用することが大切である。
- オンラインを活用した学習で身に付けたコミュニケーションの力や人間関係の形成に関する力が、通常の学級等においても成果として表れているか、在籍学級担任等と連携してきめ細かく観察したり、支援したりしていく必要がある。

(3) 通常の学級 (指導事例6 小学校・理科一斉授業)

1 児童について

学年	小・高学年(A児童)
障害の種類・ 程度や状態等	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害 ・強度近視、眼球振とうがある。 ・単眼鏡やルーペ等の視覚補助具は、積極的に活用できる。 ・学校生活で見えにくい場面があっても、周りの雰囲気に合わせて行動することが多い。そのため、「見やすい方法で活動・学習したい」と訴える場面は少なく、自分なりの方法で対処していることが多い。

※児童の実態は、別紙「自立活動目標設定シート」(参照:本冊子 P20)のとおり (略)

2 単元について

(1) 単元名 理科「水溶液の性質とはたらき」

(2) 参考となる主な自立活動の内容

2 心理的な安定

(3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること

4 環境の把握

(1)保有する感覚の活用に関すること

(3)感覚の補助及び代行手段の活用に関すること

(3) 単元の目標

○水溶液の性質や働きについての理解を図り、実験・観察に関する技能を身に付けることができるようにする。(知識及び技能)

○水溶液の性質や働きについて見いだした問題について、予想や仮説をもとに、解決の方法を発想し、表現するなどして、問題解決できるようにする。(思考力・判断力・表現力等)

○水溶液の性質や働きについての事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとする。(学びに向かう力・人間性等)

(4) 学びの過程において考えられる困難さへの対応について

○実験の見通しがもてず、順番を待つことや学習活動に参加することが困難とならないよう、グループ内での役割を明確に示して実験を進められるようにする。 【ユニバーサルデザインの観点】

○見えにくさがあり、線香の火がついているか確認するのが難しい場合には、ミニ衝立を用意し、見えやすい色の背景で確認できるようにする。 【自立活動の観点】

○試験管にピペットが入っているか確認する際は、ピペットを優しく揺らして確認するよう、促す配慮をする。 【自立活動の観点】

○近づいて見ることが難しい場面では、タブレット型端末等の補助具の活用を促す配慮をする。

【自立活動の観点】

(5) 自立活動の観点から見たA児童の目指す姿

○オンラインを活用した通級による指導において身に付けた実験方法を活用して、自分の力で線香の火を確認したり、蒸発皿の残留物の確認をしたりすることができる。<4(1)(3)>

- ・「ピペットで試験管から蒸発皿へ水溶液を移す場面」と、「蒸発皿の残留物について調べる場面」は、見えにくさが想定される。

(6) 単元の指導計画 (16時間扱い)

時	主な学習内容と活動	指導形態等
1	・水溶液の違いについて、問題を見だし、それらを調べるための実験方法を考える。	一斉指導
2	・5種類の水溶液について、何が溶けているかを調べる。	一斉指導
3 本時	・液中の水を蒸発させた結果をもとに、溶けているものについて考察する。	一斉指導
4	・炭酸水に溶けているものは何か、調べる。	一斉指導
5	・二酸化炭素は水に溶けるか調べる。	一斉指導
6	・水溶液には気体が溶けているものがあることをまとめる。	一斉指導
7	・リトマス紙を使って、水溶液の性質を調べる。	一斉指導
8	・リトマス紙の色の変化によって、水溶液は、酸性・中性・アルカリ性に分けられることを知る。	一斉指導
9	・酸性の水溶液が、金属を変化させるか予想し、金属に塩酸や炭酸水を注いだときの変化について調べる。	一斉指導
10	・金属に塩酸や炭酸水を注いだときの変化についてまとめる。	一斉指導
11	・塩酸に溶けた金属は、どうなったのか予想し、実験方法について考える。	一斉指導
12	・塩酸に金属が溶けた液を蒸発させ、溶けた金属を取り出す。	一斉指導
13	・金属が溶けた液から出てきた固体は、元の金属と同じ物なのか調べるための実験方法について考える。	一斉指導
14	・自分たちで考えた方法で、固体の性質を調べる。	一斉指導
15	・水溶液には金属を変化させる物があることをまとめる。	一斉指導
16	・水溶液の性質と働きについて、学習したことをまとめる。	一斉指導

3 本時の指導 (3/16時間)について

指導事例の概要	オンラインを活用した通級による指導において身に付けた実験方法を活用して、在籍学級の理科の一斉授業において、自分にとって見やすい実験の方法を主体的に活用することにより、自信をもって実験に取り組み、正確な結果を得ることができた事例。(自分にとって見えやすい実験の方法を主体的に活用する力を高める指導)
指導方法・(場所)	通級による指導の効果が、理科の指導においても波及することを目指した対面による指導 (在籍校である本校の理科室)
指導形態	一斉指導

(1) 目標

○器具や水溶液を正しく安全に扱い、何が溶けているかを調べて、適切に記録することができる。

(知識・理解)


○実験結果をもとに考察し、液中の水を蒸発させて白い物が残った水溶液には、固体が溶けていることをまとめることができる。

(思考・判断・表現)

(2) 自立活動の観点から見たA児童の目指す姿

- 見えにくさが想定される、ピペットで試験管から蒸発皿へ水溶液を移す場面では、オンラインを活用した通級による指導の際に選択した見えやすい方法を活用して、自分の力で実験することができる。
- 見えにくさが想定される、蒸発皿の残留物について調べる場面では、タブレット型端末を用いて蒸発の様子を観察し、自分の力で確認できるようにする。

(3) 展開(45分)

時配等	主な学習内容と活動	・指導、支援 ◇個別の支援・合理的配慮 ☆ICT活用上の留意点 ◎評価(評価の方法)	教材教具・資料 (ICT機器等)
導入 (10分)	・学習課題をつかむ。 水溶液に溶けているものについて考えよう。	・前時の学習をもとに、見た目やにおいの違いは、水に何が溶けているかによることを押さえ、学習課題をつかめるようにする。 ・黒板が見えにくい児童や、聴覚優位の児童にとって分かりやすいよう、教師が声に出しながら学習問題を板書する。	
展開 (30分)	・水溶液を蒸発させて、残った物について調べ、記録する。  ・実験結果を基に、考察する。	・見通しがもてるように、全体で実験方法についての確認をする。 ・換気、机上の整理、保護めがねの着用など、安全上の注意を確認した上で実験を開始する。 ・どの水溶液を蒸発させたら残留物があったか確認し、正確に表にまとめられるようにする。 ・グループの中で誰がどの水溶液を蒸発皿に移すか役割を確認し、見通しをもって活動できるようにする。 ◇A児童が、試験管から蒸発皿へ水溶液を移すときには、ピペットを優しく揺らして、適量を吸い取ることができているか確認する。(観察) ◇A児童が、蒸発の様子を捉えにくい場合には、児童用タブレット型端末のカメラ機能を用いて蒸発中の様子を撮影し、見えやすくしているか確認する。(観察) ☆タブレット型端末で蒸発の様子を撮影する際には、安全性を考慮して、ガスコンロから離れた高い位置で撮影し、後から落ち着いて拡大して確認できるようにする。 ◎器具や水溶液を正しく安全に扱い、何が溶けているかを調べて、適切に結果を記録している。(知識・技能) ・残留物の有無によって、水溶液に溶けている物が気体か固体のいずれかを区別できるようにする。	水溶液 試験管 蒸発皿 ピペット ガスコンロ 金網 保護めがね 児童用タブレット型端末

		<ul style="list-style-type: none"> ・各班で考察した後、全体で共有し、検討できるようにする。 ◎実験結果を基に考察し、液中の水を蒸発させて白い物が残った水溶液には、固体が溶けていること、残らなかった物には気体が溶けていることをまとめている。(思考・判断・表現) 	
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・実験からわかったことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食塩水と石灰水は、個体が溶けている水溶液であることをまとめる。 	

4 指導後の振り返りについて

① 「自立活動の観点から見たA児童の目指す姿」についてと、児童の変容

- オンラインを活用した通級による指導で、理科の実験で困難さが予想される内容について、事前に実際に使う実験器具を使って学習することができたため、感覚をつかみやすく、見通しをもって参加し、意欲の向上につながった。
- A児が困難さを克服し、楽しそうに授業を受けていた。他の児童と変わらずに実験を進めていたので、自立活動や通級による指導の効果を感じることができた。

② 協議会における、参観者の主な感想等(公開研究授業後に実施)

- オンラインを活用することで、在籍校に居ながら通級による指導の様子を、在籍学級担任が参観することができるため、支援が必要な場面を把握し、在籍学級で声掛けをするタイミングを図ることができた。また、在籍校の在籍学級担任以外の職員も参観することができるため、校内支援についての理解を深めることにもつながった。
- タブレット型端末を用いることで、食塩水の溶け残りや、細かな粒の変化を拡大して見ることができ、見えやすくするという観点から考えると、大変効果的であった。
- A児に対する支援が、学級の他の児童にとっても分かりやすいと感じ、他学級でも生かしていきたいと思った。

5 まとめ

(視覚障害のある児童への指導・支援の充実に係る、遠隔での連携の在り方について)

- 板書書写や、文章のループ読みの指導を、オンラインを活用して行ったが、画面上では見えにくさがあり、通常の学級での授業に生かしくいという課題があった。理科の実験のように、オンラインによる指導が効果的な内容と、対面による指導が効果的な内容を精査して、年間指導計画を立てる必要がある。児童本人と対話し、ニーズを把握した上で行うことも大切である。
- ICT機器の活用に関しては、他の児童にとっても有効な場合が多くある。他の児童はやっていないという理由で、通級による指導で身に付けた内容を通常の学級で生かせずに終わってしまうということがある。通級による指導で学んだことを、通常の学級でも生かしやすい環境を学校全体で考えていく必要がある。

(3) 通常の学級（指導事例7 中学校・英語科一斉授業）

1 生徒について

学年	中・(A 生徒)
障害の種類・ 程度や状況 等	<ul style="list-style-type: none"> ・両側感音難聴 ・補聴器、デジタルワイヤレス補聴援助システム(ロジャーマイク)併用 ・周囲に、自身の「聞こえ」について伝えることに対しては、消極的。

※生徒の実態は、別紙「自立活動目標設定シート」(参照:本冊子 P20)のとおり (略)

1 単元について

(1) 単元名 SUNSHINE ENGLISH COURSE 1 Program 6 「 The Way to School 」

(2) 参考となる主な自立活動の内容

4 環境の把握

(1) 保有する感覚の活用

(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること

(3) 単元の目標

○人称代名詞の目的格及び疑問詞 Why～? と Because～. の答え方の働きを理解することができる。(知識及び技能)

○ジャクソンの通学について理解し、本文の内容を読み取ることができる。(知識及び技能)

○人称代名詞の目的格及び疑問詞 Why～? と Because～. の答え方を用いて「理由」を尋ねたり、それについて答えたりできるようにする。(思考力・判断力・表現力等)

○人称代名詞の目的格及び疑問詞 Why～? と Because～. の答え方を用いて「理由」を尋ねたり、それについて答えたりしようとしている。(学びに向かう力・人間性等)

(4) 学びの過程において考えられる困難さへの対応について

○指示や説明をする時は、一つ一つの言葉を聞き取りやすくするために、静かな状況をつくり、授業者
に注目をさせてから行う。 【ユニバーサルデザインの観点】

○英文の意味を理解しやすくするために、口頭による説明だけでなく、字幕や写真・絵などの視覚補助
教材を活用する。また、ジェスチャーなど視覚支援を行う。 【ユニバーサルデザインの観点】

○新出単語の導入時には、発音の仕方を確認するため、透明マスクを着用し、口元を見せながら発音
練習を行う。 【ユニバーサルデザインの観点】

○英語の授業を構造化し、生徒にとって次の活動や行動が予測しやすい環境を整える。

【ユニバーサルデザインの観点】

○聞き取りにくさのある無声音や、モニターから流れる音声のリスニング活動時には、音声を聞き取り
やすくするために、単元をとおして、補聴援助システム(ロジャーマイク)を活用するとよいことを伝
えておく。 【自立活動の観点】

(5) 自立活動の観点から見た A 生徒の目指す姿

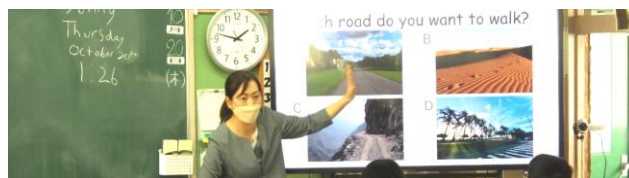
○リスニング活動において、補聴援助システム(ロジャーマイク)を活用することで、モニターから流れるまとまった英語を正しく聞き取ることができる。

※オンラインを活用した連携における配慮・工夫

- ・通級による指導の内容をオンライン会議等で事前に共有し、授業の場面に役立てる。
- ・聞こえ方は個によって違うので、様々な機器の音質を確認する。
- ・補聴援助システム(ロジャーマイク)の切り替えの様子を観察し、必要に応じてアイコンタクトで確認する。
- ・生徒本人の意思や選択を尊重しながら、本人に合った方法を考える。

(6) 単元の指導計画 (6時間扱い)

時	主な学習内容と活動	指導形態
1 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに関する最初の聞き取り(リスニング活動) ・program6 のテーマ「通学路」について考える。(スモールトーク活動を含む) ・program6 の英単語練習 ・SceneⅡで新出文法確認(人称代名詞の目的格) ・リスニング活動 	一斉指導
2	<ul style="list-style-type: none"> ・program6 の英単語練習 ・前時の文法復習 ・人称代名詞の一覧表で発音練習 ・ThinkⅡ(本文)の内容確認→QA→音読練習→大事な表現に下線引き 	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・program6 の英単語練習 ・SceneⅢで新出文法確認 (疑問詞 why～? と Because の答え方) ・リスニング活動 ・スモールトーク活動 	
4	<ul style="list-style-type: none"> ・program6 の英単語練習 ・前時の文法復習 ・ThinkⅢ(本文)の内容確認→QA→音読練習→大事な表現に下線引き 	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・program6 の英単語テスト① ・本課で学習した文法を用いたアクティビティ ・「世界の果ての通学路」視聴 	
6	<ul style="list-style-type: none"> ・program6 の英単語テスト② ・既習文法を用いたライティング ・本課のまとめ 	



3 本時の指導(1/6時間)について

指導事例の概要	通級による指導において身に付けた力を活用して、英語科の一斉授業において、補聴援助システム(ロジャーマイク)を主体的に活用することにより、モニターから流れるまとまった英語を正しく聞き取ることができた事例。
指導方法(場所)	通級による指導の効果が、英語科の指導においても波及することを目指した対面による指導 (在籍校である本校の教室)
指導形態	一斉指導

(1) 目標

○人称代名詞の目的格の働きを理解することができる。(知識及び技能)

○program6 のテーマ「通学路」についての考えを聞いたり、答えたりできる。

(思考力・判断力・表現力等)

○program6 のテーマ「通学路」についての考えを聞いたり、答えたりしようとしている。

(学びに向かう力、人間性等)

(2) 自立活動の観点から見た A 生徒の目指す姿

○program6 の最初の聞き取りと Listen の活動において、補聴援助システム(ロジャーマイク)(以下「ロジャーマイク」)を活用することで、モニターから流れるまとまった英語を正しく聞き取ることができる。

(3) 展開(50分)

時配等	主な学習内容と活動	・指導、支援 ◇個別の支援・合理的配慮 ☆ICT活用の留意点 ◎評価(評価の方法)	教材教具・資料 (ICT機器等)
導入 (2分)	・英語で挨拶する。 (weather, day, date, timeの確認)	・補聴援助システムのマイクは、ALT が身につける。	
展開 (45分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 目標①: program6 のテーマ「通学路」についての考えを英語で聞いたり答えたりしよう。 </div> ・Program6 のテーマに関する最初の聞き取りを行う。 ・学習課題をつかむ ・自分の通学路について全体で、英語でやり取りをする。 ・新出英単語の意味を確認し、ALTの後に続いて発音する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 目標②: 人について「～を、～に」と言う時の言葉を理解しよう。 </div> ・Scene1の動画を見る。	◇モニターからの聞き取りの場面で、A生徒が補聴援助システムへの接続をオンにしているか、アイコンタクトで確認をする。 ☆テレビの音量調整を行う。 ☆放送内容を確認するため、聞き取り活動後に、スクリプトを文字でモニターに(視覚)表示する。 ・他の生徒の発表内容は、教師が繰り返す。 ◎ロジャーマイクを活用し、正しく聞き取ることができる。(観察・発表) ・イメージをもって聞き取りやすくするため、パワーポイントは文字と写真の説明を加える。 ◇スモールトーク時は、他の生徒の声が入り、ペアの相手の声が聞き取りにくいいため、接続はオフにすることを理解しておく。 ◎「通学路」についての考えを聞いたり、答えたりしようとしている。(観察) ・聞き取りにくい無声音を含む発音練習の場面では、教師が透明マスクをつけ、口元を見せながら発音の確認をする。 ☆テレビの音量調整を行う。 ・板書プリントの新出表現にはあらかじめ印をつけ、線を引くところを示しておく。	テレビ パソコン 振り返りシート 英単語プリント 透明マスク 板書プリント

	・Listen の問題を聞き、答えを書く。	◇ロジャーマイクをオンにしているかアイコンタクトで確認する。 ◎人称代名詞の働きを理解し、ロジャーマイクを活用して、正しく聞き取ることができる。(観察・発表)	
まとめ (3分)	・学習のまとめを行い、振り返りシートに記入する。	◇A生徒が、モニターからの音声を聞き取る場面で、ロジャーマイクを自分から活用し、まとまった英語を正しく聞き取ることができたか確認する。	振り返りシート

4 指導後の振り返りについて

① 「自立活動の観点から見たA生徒の目指す姿」についてと、生徒の変容

○日頃、補聴援助システムの使用について「なくても大丈夫。」と話すことが多いA生徒が、英語の授業で、「こういう時はあったほうが聞き取りやすい。」などと詳しく話すようになった。「自分にとって必要なもの」「使ったら便利なもの」と実感し、意識の変容が見られた。生徒自身が「聞き取りやすさの違い」に気付き、考え、使用する機会が多くなった。

② オンライン協議会における、参観者の主な感想等(オンライン公開研究授業後に実施)

○卒業後の進路や就労等を含め、将来にわたって生活に必要な力を育てるという自立活動の視点をもつことが有意義である。学校で終わらない機器の使い方を伝える必要がある。

○A生徒が、よく学習に集中していた。本人が自分でも気が付いていなかった困難さに気付き、便利さを感じて必要な機器を使い続けられるようにすることが、指導のねらいとしてよく伝わってきた。

○ユニバーサルデザインの授業としての丁寧さが、A生徒だけでなく、他の生徒全体にも分かりやすく意欲的に活動できる授業にしていた。授業後の1対1の声かけ(確認)も良かった。

5 まとめ

(聴覚障害のある生徒への指導・支援の充実に係る、遠隔での連携の在り方について)

(1) 成果

○グループウェアを活用して在籍校と通級による指導の設置校を日常的につなぐことで、次のような成果が得られた。

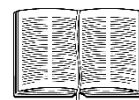
・音声だけでなく、スクリプトや画像、ジェスチャーなどICTを活用した視覚的な情報を適切に取り入れるようになり、どの生徒にも分かりやすい、授業のUD化が進んだ。

・Web会議システム等の活用により、目的に応じた職員構成で、専門的な指導・助言を得ながら情報共有ができ、生徒にとって必要な対応をスピーディーかつ組織的に進めることができた。生徒や職員間の対話が増え、生徒への理解と支援が広がった。

(2) 課題

○聞こえ方には個人差があり、一人一人実態が異なるため、丁寧な関わり、教育相談の積み重ねが必要である。(教育相談スキルの向上)

○役割を明確にした組織的・計画的な校内体制が、遠隔でのやりとりを含めた連携の土台となると考える。(校内支援体制の整備)



A large rectangular area with a dashed blue border, intended for writing a memo. The bottom right corner of the box is folded over, suggesting a page from a notebook.

◆ 実施のポイントの Q&A や指導事例を参考にして、オンラインを活用した指導にチャレンジしてみましょう。

